

## 「公共施設のあり方を考えるシンポジウム」開催概要

「日光市の公共施設（ハコモノ）の未来を考えよう」  
～次の世代の負担を減らす適正な公共施設を目指して～

○開催趣旨：日光市が抱える公共施設の問題について、市民の皆さんと情報を共有し、これから取り組むべきことを一緒に考える機会とすることを目的とする。

○開催日時：平成27年1月24日（土） 13時30分～16時30分

○開催場所：日光市中央公民館 中ホール（日光市平ヶ崎160番地）

### ○プログラム

☆主催者あいさつ：日光市長 斎藤 文夫

☆基調講演 講 師：東洋大学 客員教授 南 学氏

テーマ：「 公共施設マネジメントの必要性 ～発想転換の資産管理～」

☆情報を共有しよう！ 日光市行政改革課長 矢嶋 尚登

「日光市の公共施設の現状・課題及びマネジメントの取り組み状況」

☆パネルディスカッション

テーマ：「どうする！どうなる！日光市の公共施設」

～次世代に負担を残さないハコモノの未来を考える～

パネリスト：市民検討委員会 アドバイザー西尾真治氏、佐藤栄治氏

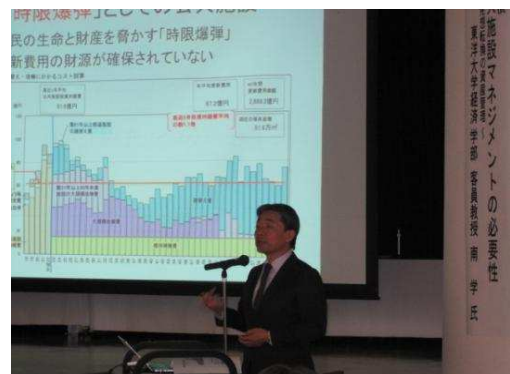
副委員長 稲垣保男氏、委員 阿久津京子氏

進行役：ファインコラボレート研究所 望月伸一氏

○参加者数：107名



【斎藤日光市長】



【南教授の基調講演】



【会場の様子】

☆シンポジウムの開催内容（各資料、議事録等）については、市のホームページでも公開しています！

<http://www.city.nikko.lg.jp/gyoukaku/koukyousisetumanejimento.html>

## ◎パネルディスカッションの概要

基調講演、市からの現状と課題・取り組み状況の説明を踏まえ、市民検討委員会のメンバーの皆さんによる日光市の公共施設のあり方等について意見交換を行いました。パネリスト各氏の発言の一部をご紹介します。）

### ◇パネリスト：市民検討委員会

アドバイザー 西尾 真治氏

佐藤 栄治氏

副委員長 稲垣 保男氏

委員 阿久津京子氏

### ◇進行役：ファインコラボレート研究所

望月 伸一氏



テーマは  
「どうする！どうなる！  
日光市の公共施設」  
～次世代に負担を残さない  
ハコモノの未来を考える～

## ☆市民検討委員会 アドバイザー：西尾 真治氏

### （日光市の現状と課題を踏まえて）

・様々な状況から考えると、施設は減らしていけないといけませんが、施設を減すということは暗いことだけではない。減らすというマイナスのイメージばかりではなく、その問題にきちんと対応しながら、明るい日光の未来を描いていかなければならない。

少子化により、20 年前と比べて、子どもの数が半分に減っているので、施設が半分に減ったとしても、サービスのレベルでは同じぐらいなのではないか。サービスレベルを下げるということではなく、施設の大きさや量を人口に合わせていく、それはマイナスではなく適切な量にしていくということ。決してマイナスに捉えるのではなく、身の丈に合った施設量に減らすということ。これはとても賢い生き方ではないかと思う。無駄なものをたくさん抱えて、使ってもいない施設に維持費をかけていくよりは、使う人の量に合わせた適切な大きさにして賢く使っていくほうが良い生き方ではないか。マイナスと捉えるのではなく、適正な量にしていくのだというような観点をもつともう少し明るい議論になっていくのではないかな。

### （これからの取組みに向けて）

・いろいろな工夫を地域の人達と一緒に考えてやっていこうということが大事。今までは行政が何とかするということがあったが、これからは行政と一緒にスクラムを組むというようなやりかたを考えることが必要になってくる。

## ☆市民検討委員会 アドバイザー：佐藤 栄治氏

### （日光市の現状と課題を踏まえて）

・今の人口は格段に少子高齢化に向かっていて、公共施設を配置した時期より異なるということ。当時人口が増えたところにたくさん建てられたものに対して、その頃から（人口や社会環境）状況が変わっているのに、施設量だけが同じまま。

・昔は地域活動で使われていた集会施設等も、人口が減少し、少子高齢化等により地域の形態が変わってきて、現在はあまり使われず、あるだけということが多かつたりするのが実態ではないか。

### （これからの取組みに向けて）

・建物を持つことだけが、その機能を保持することではないということ。学校がなくなること、少し問題視されているのは地域の拠点がなくなるからという話もあるので、単純になくすのではなく、減築して使うなり、使うところだけを使っていく、または高齢者福祉機能等、使い方を替えていくということが必要。機能重視という面からいろいろな機能を入れる事も今後は考えられる。

公共施設の今後として、日光市全体で適正な量にするとか、財政規模にあった適正化が一番の問題である。そこに向けて何ができるのかというのを具体的に考えると、総論賛成、各論反対という問題が起こってくると思う。そこを乗り越えていかないと将来にはつながらない。選択をしていかなければならないと言う中で、地域の将来を考えたり、市の全体の将来を考えたりすることが必要であり、将来に向けた適正化できる良い選択をしていかななくてはならない。

## ☆市民検討委員会 副委員長：稲垣 保男 氏

### （日光市の現状と課題を踏まえて）

・ヒト・モノ・カネ・公平性という面で課題を捉えると、人口が減って、財政的にも厳しくなっていく上に、老朽化した公共施設を過大に抱えているということ。また、地域格差が大きく偏りがあり、地域のサービスの公平性をどう担保するのか等、様々な厳しい実態と、課題を抱えていると認識している。

・しかし、市民アンケートを実施した結果から見えるように、この取組みに対しての市民の関心度が低いし、知らないという人が多い。この問題は市民と行政が一緒に考えて、議論していくことが必要なので、今後は市民の関心度をどうあげていくのかが課題である。

### （これからの取組みに向けて）

・改善の考え方は施設重視から機能重視への変換による再編となっており、多機能化と複合化で、市民の利便性がアップする、使いやすくなるということと合わせ、ハコモノの総量も減っていく。また、使用できる既存の施設は有効に使う、あるものは有効に使っていくのだよということで、これらについては財政軽減につなげるのに有効だと思う。

・改善はスピードであり、できるものはスタートダッシュで実施し、後は人口状況と必要に合わせて改善していけば良いのではないかと。スタートダッシュは維持管理費のコストダウン、一気に直すということでコストダウンにつながると思う。ある程度の年数で中間目標値を設定して、何をいつまでにどれだけやるのかなどを明確にし、目標値管理のマネジメントサイクルが多く回っていくことで、中間のチェックとアクションができるということは非常に有効だと感じている。

・最も大事なものは、皆に実態を知っていただく方法で、問題意識を共有して再編計画の段階で、官民が一体となって知恵を出し合うことだと思う。民間の知恵もたくさん入れて、市民のコンセンサスを得るために、市民に興味を持っていただくようなものを行政にはやっていただきたい。

## ☆市民検討委員会 委員：阿久津 京子 氏

### （日光市の現状と課題を踏まえて）

・市民一人あたりの公共施設が、全国平均の 1.8 倍あり、その施設を維持するために莫大な費用がかかる。少子高齢化により今後の税収が見込めず、将来資金不足になることは明らかである。

・人口構成の地域格差が大きいことも課題である。

・公共施設の 4 割が学校であることは驚きであり、今後の公共施設の有効利用のためには、学校での教育内容や空き教室の利用内容が重要になるのではないかと。

・旧市町村の枠にこだわらず自分の身近に公共施設を望む自己中心の利便性に目を向けずに、広い視野を持ち日光市全体の現状を知ることが大切だと感じる。

### （これからの取組みに向けて）

・日光市の公共施設をどのように改善していくのかについては、施設を持っているという満足感から、その施設の機能性とそれをどんなふうにご利用していくのかということが大切。

・私達は将来のために合併の道を選択したということを念頭に、旧5市町村の枠を乗り越えて本当に必要な公共施設を取捨選択し、機能性を高めながら育てていくことが大切。

・公共施設は、建物というハードと、その中で行われる市民の活動と言うソフトが相まってこそ、本当の意味での公共施設になるので、私達市民も行政と協力して活動していきたい。

・若い世代が、「日光に生まれてよかった、これからも日光に住み続けたい」と思えるような環境を作っていくのは、今現場を担っている私達や会場にいる皆さんの世代だと思うので、これからも、このような問題に市民が参加し関わっていくことが大切だと考える。

魅力ある日光を未来に引き継ぐ  
ために！皆で考えよう！

